

第2回小牧市情報教育 ICT 推進委員会 会議録

1 会議の名称

第2回小牧市情報教育 ICT 推進委員会

2 開催日時

令和3年2月22日（月）午後3時から4時40分まで

3 開催場所

小牧市役所 本庁舎4階 404会議室

4 報告及び議事

○報告

- (1) 小牧市学校教育 ICT 推進計画の進捗状況について
- (2) 令和2年度小牧市教育委員会セキュリティ監査の実施結果について

○議事

- (1) 小牧市学校教育 ICT 推進計画の見直しについて

○その他

- (1) 小牧市教育委員会教育情報セキュリティポリシーの見直しについて
- (2) GIGA スクール時代の学校教育について（意見交換）

5 公開又は非公開の別

公開

6 出席者

(1) 委員

氏 名	職 名
村松 浩幸	信州大学教育学部 技術教育グループ 附属次世代型学び研究開発センター長
舟橋 孝司	元小牧市立学校校長
林 文通	岩崎中学校校長
梶田 光俊	大城小学校校長
水野 一哉	小牧市コンピュータ整備検討委員会委員 小牧市 IT 活用研究委員会委員 (篠岡中学校教頭)
栗木 健二	小牧市 IT 活用研究委員会委員 (小牧原小学校教頭)
岡田 紘司	小牧市 IT 活用研究委員会委員 (味岡小学校教務主任)
江本 克也	小牧市コンピュータ整備検討委員会委員 (小牧中学校教務主任)
鬼頭 宏之	小牧市コンピュータ整備検討委員会委員 (味岡小学校校務主任)
舟橋 朋昭	行政改革課長

(2) 事務局

氏 名	職 名
伊藤 武志	教育部長
石川 徹	教育部次長
兼子 正巳	学校教育課 指導主事
小川 正夫	学校教育 ICT 推進室長
塚本 真也	学校教育 ICT 推進室 主幹
上原 みよ子	学校教育 ICT 推進室 ICT 推進係長
加藤 千明	学校教育 ICT 推進室 ICT 推進係 主査

(3) その他

氏 名	職 名
春日井 健弘	株式会社EDUCOM
滝田 理	株式会社EDUCOM
堂尾 知則	株式会社フューチャーイン

7 傍聴者 0名

8 会議資料

次第

資料1 委員名簿

資料2 小牧市学校教育 ICT 推進計画の取組状況

資料3 ICT 活用事例集（令和3年2月時点）

資料4 令和2年度小牧市教育委員会情報セキュリティ監査結果

資料5-1 小牧市学校教育 ICT 推進計画（追補版）（案）

資料5-2 小牧市学校教育 ICT 推進計画（追補版）（案）概要版

資料6 （臨時休校時）小牧市オンライン学習～こどもと学校をつなぐ～

参考 広報こまき1月1日号

別冊 小牧市学校教育 ICT 推進計画

9 会議の結果及び経過

（事務局：小川室長）

それでは、定刻となりましたので、ただいまより、第2回小牧市情報教育ICT推進委員会を開催させていただきます。

私は、本日の進行を務めます 学校教育ICT推進室長の小川でございます。

本委員会につきましては、今年度、新型コロナウイルス感染症の影響により、第1回目は書面開催とさせていただきました。今回は、県外の村松委員長と Teams を活用して、

オンラインで接続した形で開催させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、会の開催にあたり、村松委員長から、ご挨拶をお願いいたします。

(村松浩幸委員長)

ご紹介ありがとうございます。信州大学の村松です。今回は、コロナ対応ということで、今、長野市の信州大学附属学部からオンラインで参加しています。

本日、ご欠席の方はいますか。また、傍聴者についてもご報告をお願いします。

(事務局：小川室長)

欠席はありません。傍聴者もありません。

(村松浩幸委員長)

欠席者、傍聴者はないということです。

はじめに、1点進行上のお願いをさせていただきます。本日の審議終了時間は、午後4時30分頃を予定しています。なるべく多くの方にご発言いただきたくため、ご意見は1回につき、2点まででお願いします。いつもは、ご意見等については挙手していただき、お名前をお呼びした後、発言いただきますが、今日はモニター越しですので、梶田副委員長に発言者の指名等をお願いいたします。

それではお手元の次第に基づいて会議を進めます。

次第の2 報告に入ります。報告の1 小牧市学校教育 ICT 推進計画の進捗状況について、事務局より説明をいただきます。

(事務局：上原係長)

それでは、次第の2 (1) 小牧市学校教育 ICT 推進計画の進捗状況について、説明させていただきます。

平成31年2月に策定された「小牧市学校教育 ICT 推進計画」の第4章に記載されており、ICT教育に関する様々な取組みを推進しているところです。その各取組みの進

捗状況につきましては、本委員会に報告し、ご意見をいただくこととなっており、昨年2月に開催された本委員会においても、昨年2月時点の取組状況を報告させていただいたところです。

資料2「小牧市学校教育 ICT 推進計画の取組状況」をご覧ください。こちらは、推進計画第4章に記載されております取組項目について、上段に計画を策定した平成31年2月当時の計画内容を記載し、下段に今年度の取組状況として、令和3年2月時点の内容を記載しております。

それでは、主な項目について説明させていただきます。まず「1. 全体計画や運用ルールなどの整備」につきましては、①GIGA スクール構想対応のため、ICT 検討委員会を新たに設置しました。また、本日ですが、ICT 推進計画の進捗管理を行うとともに、ICT 推進計画の第6章として、GIGA スクール構想の1人1台端末に関する部分を追補します。②昨年度改訂したセキュリティポリシー及び運用マニュアルを各校に周知しました。

2ページをご覧ください。「2. モデル校での実践検証」では、新型コロナウイルス感染症の影響で先進校視察は昨年度より少ないながら、視察を実施しました。資料3のとおり、タブレット端末を活用した授業の実践事例集の作成をモデル校進めていただいております。4月頃に取りまとめる予定です。

また、現在子ども、保護者、教員に向けて意識調査を行っており、調査結果は市ホームページへ掲載する予定です。

3、4ページ「3. 学習時における ICT 機器の利用環境整備」では、①既設校内 LAN のケーブルを更新し、体育館や運動場にアクセスポイントを設置しました。②学校から直接インターネットに接続できる環境を整備しました。③1人1台端末、⑤実物投影機を整備しました。

5、6ページ「4. 学習効果を高めるソフトウェアやサポート体制の整備」では、①文部科学省の令和3年度「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」について、小学校3校、中学校3校での実施を申請しました。②研修として、各校の

代表者が集まる集合研修として「ロイロノート」の操作研修、1人1台端末の導入にあたり、各校1回ずつ操作研修を実施しました。③ICT支援員の訪問回数を段階的に増加してきました。

8ページ「5. 学校からの積極的な情報発信と校務支援システムの整備」では、①HPアクセス数、保護者メールの送信数・ユーザー数等は記載のとおりです。②令和3年度に教職員の出退勤システムを導入することを決定しました。

9ページには、本計画の進捗状況を測定するための指標一覧を掲載しています。

以上で、簡単ではありますが、推進計画の主な取組状況についての説明を終わります。

(村松浩幸委員長)

小牧市さんは、GIGAスクール構想による前倒しがあったものの、順調に進んでいる印象です。校務支援、児童生徒の活用、様々な方面に目配りされていると思います。いくつか私の方から質問させてください。資料の2ページ目、こども、保護者及び教員を対象とする意識調査をとりまとめて掲載ということで、保護者も対象としており非常に素晴らしいと思います。調査の項目は共有されていますか。簡単にご説明いただけるとありがたいです。

(事務局：上原係長)

例えば、こどもの指標としては、資料2の9ページのモデル校の欄に記載しています、「タブレットPCを活用した授業は分かりやすいと感じている児童生徒の割合」のほか、「タブレットPCを使った授業では、集中して取り組むことができると感じている児童生徒の割合」などの項目があり、小学1年生から中学3年生まで、Webアンケート方式にて調査を行っています。教員につきましては、ICTを活用することより、こどもの姿がどう変わったかという項目を調査しています。また、保護者については、任意でWebアンケート方式による回答をお願いし、ICT教育で学校に期待する点、逆に不安

に感じる点などを聞いています。

(村松浩幸委員長)

ありがとうございました。とりわけ、後の話にもありますが、持ち帰りや家庭との連携だったり保護者の皆さんがどう捉えたり、理解いただくのかは非常に重要です。保護者にも調査しているとのことで、結果が楽しみです。現段階で、調査を概観していただいております。お気づきの点があれば教えてください。

(事務局：上原係長)

保護者アンケートにおいて、不安を感じる点として、情報セキュリティに関すること、姿勢や視力低下など健康面についての回答が多いため、取組みをどう伝えていくのかが一つの課題と考えています。

(村松浩幸委員長)

今の話は、GIGA スクール構想で端末が1人1台整備されたところで重要な課題だと思います。これに関して、委員の方々、いかがでしょうか。梶田副委員長の裁量で指名をお願いします。

(林文通委員)

岩崎中の林です。アンケート結果は職場で見ました。やはり、導入直後ということもあって、保護者は、こどもの生活環境が変わるのではないかと心配する回答が多いなど感じました。教員も導入当初は恐る恐るでロケットスタートとはいきませんでした。最近、若い先生を中心に積極的に活用が広まってきています。また、ICT 支援員のアドバイスもあって随分と広まってきました。そういった実践を積み重ねていけば、保護者の意識も徐々に変わっていくのではないかと捉えています。

(村松浩幸委員長)

端末の持ち帰りや保護者との関係は、後ほど私の方からも話をいたします。

資料2の4ページ目、②として、モデル校の通信状況を踏まえてセンターサーバ方式ではボトルネックが解消できないので、各小中学校からダイレクトにつながる方式に変更したことは、非常に素晴らしい判断だと思います。私も長野県内外の自治体から相談をいただきますが、予算面等からセンター方式のままとってしまうケースがあります。今までの台数とは全然違うことと、クラウドが前提のため、ネットワークが繋がらないと、極端に言うと高い文鎮と化してしまうところがある。この部分に配慮するのは重要。さすが小牧市さんと感じました。

あとは、整備状況として充電保管庫やタブレットPCについて、割合としては、児童生徒はほぼ100%に届いていますか。カバー率を教えてください。

(事務局：上原係長)

タブレットPCの整備のカバー率については、小学1年生から中学3年生まで全児童生徒をカバーしています。

(村松浩幸委員長)

非常に素晴らしいですね。実物投影機も追加で整備されているのもいいと思います。クラウドになると、どうしてもタブレット端末そのものに話が行くが、決してこれまでの分かりやすい授業、全体に大きく映して見せるというのが不要になったわけではなく、実物投影機のようなものをきちんと整備されるのはいいことです。

最近、大学でも実物投影機をオンライン授業で使い出しており、先日も大学の先生方に研修講座を開いたところでした。こういった従来の機器をうまく活用することも大事です。

ソフトウェアの話もありましたが、各学校での運用状況としては、稼働できる状況になってきていますか。

(鬼頭宏之委員)

味岡小学校の鬼頭です。モデル校として、既に整備されていた部分もありますが、1人1台になり、各クラスで積極的にタブレットPCを使用しています。資料3にも味岡小学校の実践事例が載っていますが、先生方は工夫をして、各教科、算数、社会、生活科等に限らず色々なところで活用しています。これが正解かどうか分からないので、職員みんなで話し合いながら進めています。

(栗木健二委員)

小牧原小学校の栗木です。本校は、1月からの本格導入ということで、先生方に積極的に活用してもらっています。校内研修として、ロイロノートやeライブラリの使い方を全教員対象に行いました。Office365については、機能が多くてどこまで使用しているのか分かっていない部分があります。問題点としては、ワード(クラウド版)の縦書きができないので、学級新聞をどう作成しようか悩んでいるところです。

(江本克也委員)

小牧中学校の江本と申します。本校も1月から使い始めましたが、若い先生を中心に意欲的に道徳などいろんな授業で使っています。3年生は、各クラス自分たちの文集をつくる時にロイロノートでアンケートをとったり、生徒会でも使用したりしています。本校の情報部会において、朝にタブレットPCを出してから、1回ごとに保管庫にしまっただけでは活用が広がらないという校長先生の見解もあり、生徒が文房具と同様に使っていけるように、朝出したら、基本的に各自机の中で管理しています。特別教室にもタブレットPCを持参するため、移動のときに落下して破損したこともあります。その考え方が良かったのか様々な教科で活用できています。

問題点としては、体育でお互いの活動を動画で撮ったりしたいのですが、運動場でインターネットが繋がらないことがあることくらいです。

(村松浩幸委員長)

活用が進んでいる様子が分かりました。児童生徒がタブレットPCを落としたり、破損したりしたときの体制やシステムはどうなっていますか。

(事務局：上原係長)

児童生徒のタブレットPCの故障等は、保守の中で対応しています。故障等が発生した場合、サポート業者または端末リース業者を通じて修理を行っています。端末が故障してしまった児童生徒には、予備機を充当して運用しています。

(村松浩幸委員長)

保証等の対応も手厚く丁寧で感心しました。市内各校、モデル校以外でも課題はありますが、順調に活用がスタートしている状況ですね。

続いて、資料2の6ページ目、モデル校の情報交換会を定期的を開催して情報共有を図ったとありますが、重要なことなので、具体的にどういう様子か概略を補足してください。

(梶田光俊副委員長)

毎月、各学校でどんな取り組みをしているのか、また、挙げている問題点などについて情報交換をしています。今年は、GIGA スクール構想が前倒しになった関係で、モデル校に入っていたSurfaceが中学校に移動する時期にタイムラグが生じて実践できなかったシーズンもありますが、そのような状況でも何ができるか考えながら各校が取り組んでいけたのは、情報交換会で意見交換ができた成果だと思っています。具体的には、授業でこんな活用をしましたという話をしています。

(村松浩幸委員長)

モデル校を立ち上げた時、上手くいったことだけでなく、とりわけ、上手くいかなかったことが大事という話をしましたが、市内の他校に共有、つなげる仕組みはあり

ますか。

(事務局：上原係長)

資料3の活用事例集については、市教委として、上手くいったことも、上手くいかなかったことも「ふりかえり」の欄に記載し、他校に共有していこうという考え方で作成いただいています。こういった取組みを通じて、失敗事例も含めて広く情報共有しています。

(梶田光俊副委員長)

モデル校で上手くいかなかったことを踏まえて全学校への導入計画を作っているの
で、直接的に届いていなくても上手にフィードバックできていると思います。

(村松浩幸委員長)

例えば、今のような話を公式な資料として残しておいてもらいたいと思います。計画を策定する際、今の話は重要だと思います。端末の落下など、全国の学校で同じようなことが起きています。先進的に取り組んでいる小牧市の悩みや課題をどう乗り越えていったのかなど、計画とは違うかもしれないが、まとめてもらえると、今後の参考になると思います。

ICT 支援員を積極的に活用しており、文部科学省の GIGA スクールサポーターの事業も有効に活用したとのことですが、ICT 支援員からのフィードバックで、今後活用の参考になるような情報は届いていますか。

(事務局：上原係長)

先日、学期ごとの支援傾向をいただきました。例えば、学校別の授業支援の回数、教科別の授業支援の回数、ソフトウェアの校内研修回数など、統計的なデータが提出されています。さらに、各学校の支援傾向として、ICT 支援員が現場で感じたことをコメントで整理したものを、市教育委員会がまとめ直して各学校にフィードバックして

います。

(村松浩幸委員長)

そういった仕組みがあるのはいい事例だと思います。ICT 支援員におまかせで終わってしまう自治体もいくつかあります。色んな学校を回っている ICT 支援員だからこそ気が付くこともあります。今のような仕組みを有効活用してほしいです。

先ほど、校務支援の話もありましたが、これについて、各学校の先生方いかがでしょうか。

(梶田光俊副委員長)

校務支援について、出退勤システムの管理機能は来年度からの導入になるため、現状は何も変わっていません。

(村松浩幸委員長)

了解しました。私どもの附属学校も導入しているので、働き方改革につながるような形で活用していただきたい。

9 ページの指標を見て、各委員、お気づきの点があればお願いします。

児童生徒の ICT 活用を指導する先生方の力が平成 31 年に 71% ぐらいだったのが令和 2 年 3 月に 91% に上がってきているのは、整備が進んだり研修が進んだりしている成果と捉えていいのでしょうか。

(梶田光俊副委員長)

毎年 2 月に文部科学省が行う教育の情報化の実態に関する調査において回答した数値が令和 2 年 3 月の段階で 91.1% になっています。これについて、委員の先生方で実感はありますか。

(岡田紘司委員)

味岡小学校の岡田です。教員の ICT 活用指導力で下から 2 つ目の児童生徒の ICT 活用を指導する能力が上がってきているのは、研修を行っていることと、特に味岡小については、他の先生に ICT 機器の操作方法を気軽に聞ける環境であることが一つの要因だと思います。

私が指標一覧を見ていて気づいたのは、「情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力」が 86.3%と上がってきていますが、ICT に対する態度は、学校でも情報化社会を見据えて指導していく必要があると感じています。

(水野一哉委員)

「児童生徒の ICT 活用を指導する能力」が上がっているのは、こどもたちがある程度使えるようになっているので、先生たちとしては、授業で使ってみたら無事に使えたこと、市の環境も割と整っていてトラブルもあまり起きていないことから、自信を持ってやれているという感じがあるのかなと思います。15 年ぐらい前は、コンピュータのトラブルが怖くて使わなかった年配の方も安心して使えるようになってきたのではないのでしょうか。

先ほど岡田委員が話をした基盤の能力について心配していることとして、先日、中学生が休み時間にブラウザの中の文字のソースを表示して書き換えて、あたかも本当のページのようにする遊びをしていました。これは、場合によっては、いたずらや悪意ある行動につながることです。教員よりも知識がある生徒が、悪意ある使い方ができることを見つけ出してくることを考えると、道徳的な面を含めて、知識や態度について指導する力が必要になると感じています。

(村松浩幸委員長)

文部科学省の調査について、検討段階ではありますが、いわゆる家庭の話やセキュリティの話も調査に入れて意識化させるべきでないかという議論が進んでいます。来

年度の課題の一つになると感じます。

梶田副委員長、モデル校の指標についてお気づきの点があればお願いします。

(梶田光俊副委員長)

指標の数字は昨年度までのものであり、今年度は自由に気軽に使っている雰囲気なので、今年度の数値はもっと進んでいると思います。ただ、例えば、全教員の中でたった1人は使わない、使いにくいと感じる方は残る気がしますので、その辺りが数字にどう影響を与えるのか心配しています。

(村松浩幸委員長)

今年度の結果がどう反映されるか楽しみにしています。

その他、資料についていかがでしょうか。全体的に小牧市は順調に整備が進んでいますので課題も出てきますが、それに対する PDCA サイクルも上手に回されている様子が分かりました。

(村松浩幸委員長)

それでは、続きまして、報告（2）令和2年度小牧市教育委員会情報セキュリティ監査の実施結果について、事務局より説明をいただきます。

(事務局：上原係長)

資料4をご覧ください。教育情報セキュリティポリシーに基づきまして、小学校3校、中学校2校の計5校を対象に、セキュリティ監査を初めて実施いたしました。資料4は、その結果をとりまとめた中間報告となります。監査方法は、①教職員へのアンケート調査、②校務系端末のログ調査を行うとともに、③現地及び電話でご担当の先生から聞き取り調査を行いました。監査結果のうち、ポイントとなる指摘事項について説明いたします。

3（1）をご覧ください。まず、教職員アンケート調査による自己点検及び先生から

の聞き取り調査からは、まず、大前提として、小牧市教育情報セキュリティポリシー及び実施手順を読んだことがない教職員がいたため、ポリシーの周知を再度行っていただきたいこと。次に、端末の情報が漏えい防止のため、長く席を外すときは端末をロックしたり、帰宅時には端末をシャットダウンすること。次に、校務支援システムC4thをはじめ、各システムのパスワードを机上にメモしたり、オートコンプリート機能を有効にして、自動で入力したりしないこと、業務以外の目的で、電子メールアドレスの使用やインターネットへのアクセスをしないこと、私用のUSBメモリなど電磁的記録媒体を使用する場合には、教育情報セキュリティ管理者（校長）の許可を得て利用することを全校共通の指摘事項としております。

また、小牧小及び味岡中においては、学校のモバイル端末やUSBメモリ等を校長の許可を得ずに、外部へ持ち出さないよう周知徹底することを指摘事項としております。

(2) 校務系端末のログ調査について、今回はSKY Client Viewにて、対象校の校務系端末のログを取得したところ、ログ取得期間20日間中のうち16日間、対象端末数の39%において、Yahoo!メール、Gmailなどのフリーメールの使用が確認されましたので、フリーメールを使用しないよう周知徹底することを指摘事項としております。

以上の結果については、すでに対象校に通知するとともに、改善措置を講じるよう通知いたしました。

また、来年度以降も、毎年度5校を対象にセキュリティ監査を実施し、その結果については本委員会に報告させていただきます。

(村松浩幸委員長)

セキュリティは難しい課題です。不正アクセスなど事故の大半は、組織内の方々のヒューマンエラーである場合が多いです。実際に各学校の様子を見て、また、監査結果を踏まえて、先生方で感じたこと、対応が必要なことがあります

したらお願いします。

(栗木健二委員)

監査結果を見て、気を引き締めないといけないなど話をしていました。これは、ハードウェアの問題かもしれませんが、遠隔操作システムを使って仕事をする先生から、端末をシャットダウンすると遠隔操作ができないと言われました。

(梶田光俊副委員長)

以前、そういう話はありませんでしたが、新しい遠隔操作システムに変わった段階で端末をシャットダウンすることになっています。

(村松浩幸委員長)

遠隔操作システムについて、小牧市はどこまで許容されていますか。

(事務局：上原係長)

遠隔操作システムは、教員を対象としまして、申請された教員が自宅のパソコンから業務を行う必要があるときに認めています。

(村松浩幸委員長)

許可を受ければできる体制ということですね。先生方がより円滑に仕事ができるように配慮されています。私どもも、学会の関係で全国の中学校のセキュリティ状況を調べたことがあります。4割ぐらいの学校は、セキュリティが厳しすぎて授業に支障が出ていました。例えば、生徒のパソコンでUSB端子が使えないため、技術の授業で制御する教材が全然使えなくて困っている事例もあります。授業に支障が出ては本末転倒です。先生方の利便性と情報漏洩とのバランスの取り方が重要です。

(林文通委員)

遠隔操作システムが導入されていると、USBメモリ等により学校外に情報を持ち出す必要がなくなるため、非常にありがたいと思います。データを簡単に持ち出そうと考える職員も少なからずいるので、意識を改める必要性もあると感じています。

(村松浩幸委員長)

先ほど、児童生徒が使用するうえでのモラル、セキュリティの話がありましたが、先生方にもセキュリティに対するフィードバックをお願いします。また、先生自身がセキュリティのことを意識して対応できるような研修体制等も今後の課題だと思います。

(舟橋孝司委員)

今回の監査内容は、今現在のセキュリティポリシーということで、クラウドの話になると全く内容が変わってくると思います。こどもも教員もクラウドを使い出すとポリシーも変わってくるので、その都度、検討して監査することが必要だと思います。つつい甘くなりがちなので、この先、ますます難しくなってくると思います。

(村松浩幸委員長)

貴重な、重要なご指摘でした。この後の推進計画の見直しの中で検討できればと思います。

続きまして、次第の3 議事に入ります。議題の1 小牧市学校教育 ICT 推進計画の見直しについて、事務局より説明をいただきます。

(事務局：塚本主幹)

本市の ICT 教育においては、平成 31 年 2 月に策定した「小牧市学校教育 ICT 推進計画」に基づき、推進してきたところですが、令和元年 1 2 月に発表されました国の GIGA

スクール構想、その後の新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に計画が前倒しとなりました。

資料5-1をご覧ください。こちらは、「小牧市学校教育 ICT 推進計画」に、GIGA スクール構想前倒しに関する部分のみ、「第6章 GIGA スクール構想の実現に向けて」として、「追加で補足した」追補版の（案）となります。児童生徒1人1台端末を整備したことにあわせ、3クラスに1クラス分の端末整備を目指していた「小牧市学校教育 ICT 推進計画」を全面改訂することも考えられましたが、推進計画については本来、来年度に見直しを予定していることなどから、今年度はあくまで GIGA スクール構想前倒しに関する部分のみ「追加で補足する」形式とさせていただきました。追補形式とすることと、追補する計画の内容については、ICT 検討委員会でご意見をいただき、作成したものです。

第6章は、そのほとんどの内容が第1回委員会でご意見をいただきました国の補助金の措置要件となっている計画と同じ内容としています。

資料5-2をご覧ください。こちらは、追補する第6章の概要版となります。それでは、概要版に沿って、主な内容を説明いたします。

まず、左上から、「1. 「追補版」策定の背景」には、GIGA スクール構想の前倒しなど、追補した経緯を記載しております。

「2. 通信ネットワーク環境、学習者用タブレットPCの整備」は、まず、通信ネットワークについて、校内 LAN のケーブルを 10Gbps 通信対応に更新したこと、各学校に光回線(1Gbps)を新設し、センターサーバを経由せず、直接インターネットに接続できるようにしたこと。

次に、学習用タブレットPCについては、小学校は iOS、中学校は Windows を選定し、必要台数を整備したことを記載しております。

続いて、「3. ICT 活用目標」については、各学校において「タブレットPCの活用ルール」を作成すること、タブレットPCの活用回数の目標を表のとおり定めること、またその活用エリアは、普通教室に限らず、体育館、運動場など校内全てのエリアを

対象とし、活用場面も授業だけでなく、部活動や委員会活動、校外学習など学校生活の様々な場面としています。

右上の「4. 臨時休校等における ICT を活用したオンライン学習」については、臨時休校や分散登校期間中等における ICT を活用したオンラインによる学習支援につきましては、補助金措置要件の計画に追記するよう国から指示があった部分になります。ご覧のとおり、計画には、「長期の臨時休校が発生した場合に備え、端末の持ち帰りや家庭・学校間の同時双方向型オンライン授業などの実現に向けて、具体的な活動イメージや課題等を段階別に整理し、端末・ネットワーク設定等の研究を進める」と記載しています。また、オンライン学習といっても同時双方向からメール送信まで幅広い内容が含まれますので、「小牧市のオンライン学習の5ステップ」として、具体的な活動イメージや課題・必要条件等を段階別に整理した図も掲載しております。

「5. 指導体制の強化や働き方改革（校務の効率化）への対応」については、ICT 支援員など外部人材の活用や、統合型校務支援ソフトを活用した校務の効率化の推進等を記載しています。

最後に、「6. 達成状況のフォローアップ」として、市教育委員会による教職員研修の実施のほか、各校の情報教育担当が ICT を活用した授業実践を広めるリーダー役となる体制づくりを行うこと、ICT 支援員による校内研修を開催することなどについて記載しております。

以上が、第6章として追補する計画の内容となります。

なお、「小牧市学校教育 ICT 推進計画」につきましては、この追補します第6章も含めて、来年度見直しを予定しております。以上です。

(村松浩幸委員長)

本格的には来年度見直しが行われるということで、今回は、GIGA スクールの前倒しを踏まえての追補ということですので。先生方いかがでしょうか。

ぜひ先生方にお聞きしたいのですが、タブレットPCの活用ルールは、今までのル

ールに加えて、新たに作成したり、検討されたりするのですか。

(水野一哉委員)

市教育委員会が示した参考ルールの中から、本校の生徒に不要な部分を除きつつ、具体的な例を加えながら生徒に伝わりやすい文章に変更し、学校のキャラクターをイラストで入れたりしてまとめたものを配布しました。また、PDFにして本体に保存してあります。特に守ってほしいことは、デスクトップ上で見えるようにしています。

(岡田紘司委員)

1年生から6年生までいるので、細かく書いても十分理解できないところがあるため、要点を4つに絞り、守ってほしいことを表示するものを作成し、充電保管庫に貼っています。使用時において、担任から細かい指導をするようにしています。

(村松浩幸委員長)

導入時のハードウェアの扱ただけでなく、こどもたちがツールとして使っていく上でのリテラシー、モラルにあたる部分の必要性はさらには増えてくるようになります。この辺は、今後、文房具のようにタブレットPCを使うことが日常的になると、各学校が直面する大きな課題であり、次の推進計画において重点を置くべきだと感じています。

オンライン学習については、臨時休校の段階を踏まえて丁寧にまとめてあります。

(村松浩幸委員長)

先進的に進んでいる部分と、進んでいるがゆえに新たに生じてきた課題がありますが、それを踏まえて、さらに良い教育ができるように計画の見直しを進めていければと思います。

先ほど私の方で資料3の活用事例を扱いきれなかったもので、どのように活用していくのか事務局の方で少し説明をお願いします。

(事務局：上原係長)

昨年度作成されたものは、各校3部ずつ配布するとともに、校務支援システム上の先生方が閲覧できる場所にPDFデータを掲載しています。今年度、大きく環境が変わり、パイオニア校で新たな端末、ソフトウェアを使った活用事例が出されますので、4月頃にまとめて、昨年度と同様に冊子、データ等で先生方が見やすいように共有していきたいです。

(村松浩幸委員長)

この事例集は分かりやすく、1ページに上手くまとめてあると思います。活用事例集の作成に携わった先生から一言お願いできますか。

(鬼頭宏之委員)

先ほどお伝えしましたが、味岡小学校では色んな教科で、教科に縛られずに1人1実践ということで取り組んできました。臨時休校もありましたが、モデル校として1人1台タブレットが早く整備されたので、積極的に活用して実践を深めているところです。課題は多いですが、これから実践を重ねていきたいです。

(村松浩幸委員長)

日々、校務等で忙しい中、まとめていただきありがとうございます。活用事例集を有効活用できるように共有していただければと思います。

意見も出尽くしたようです。今年度、本委員会の開催は今後予定されていませんので、本日ご発言がなかった箇所についても何かお気づきのことがありましたら、今月中に事務局へご連絡いただきますようお願いいたします。いただいたご意見は、本日いただいたご意見を踏まえて、私と梶田副委員長と事務局で改訂案を修正させていただき、修正点については事務局から皆様に報告させていただく一任というような形でいき

いと思いますが、よろしいでしょうか。

～ 異議なし ～

(村松浩幸委員長)

それでは、次第の4 その他 (1) 小牧市教育委員会教育情報セキュリティポリシーの見直しについて、事務局より説明をいただきます。

(事務局：兼子指導主事)

昨年度、国の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」を参考に、小牧市教育情報セキュリティポリシー及び実施手順を見直ししたところです。今年度は、実施手順内で教育委員会事務局に関する規定を検討することとしておりましたが、GIGA スクール構想の前倒しなど、急速な ICT 環境の変化がありましたので、児童生徒1人1台端末及びクラウドサービスの活用状況等も踏まえ、引き続き検討の上、来年度の会議にてお諮りさせていただく予定です。

以上、説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(村松浩幸委員長)

先ほどの意見にもありましたが、来年度、クラウド、1人1台端末を踏まえて見直しの提案をいただけるとのことです。その他、この見直しに関して検討に盛り込んでおく必要があるれば意見をお願いします。

(栗木健二委員)

心配なのが、私たち職員ではなく、こどもたちのクラウド利用についてです。こどもたちがソフトウェアを使って資料等を作成し、Office365のOneDriveに保存します。その中で、こどもたちが撮影したデータ、写真を作品物に貼付していました。OneDrive なので、家庭でも保存等ができる。家庭からアクセスして自宅のパソコンに落としたときに、そのデータに対するセキュリティというか、責任をどこまで負うべ

きか曖昧になっています。こどもの成果物に対して写真をとってはいけないとは言えないので、どうしたらいいのか困っています。セキュリティの線引きが非常に難しい部分ではありますが、検討していく必要があると思います。

(村松浩幸委員長)

活用が進んでくると検討課題になってくると思います。来年度の論点の一つにさせていただきます。

(舟橋孝司委員)

クラウド利用は、臨時休校時を想定してのことなのか、条件が整い次第、全面的に使っていくのか話はされていますか。

(事務局：兼子指導主事)

臨時休校時のみではなく、普段の学校での活用についても検討していきます。

(舟橋孝司委員)

何年度からという数字は決めていますか。

(梶田光俊副委員長)

実は、今回の GIGA スクール構想のデフォルトの状態がタブレットPCの利用とクラウドがワンセットになっているため、クラウドは既に使っています。

(舟橋孝司委員)

頻繁に活用するとか、セキュリティも含めて、検討していくということですね。分かりました。

(村松浩幸委員長)

基本、クラウドは臨時休校に限らず活用する。持ち帰りは別途、検討していくとい

うことですね。

続きまして、次第の4 その他 (2) GIGA スクール時代の学校教育についてについて、事務局より説明をいただきます。

(事務局：塚本主幹)

新型コロナウイルス感染症の影響もなかなか先読みできない中、昨年春のような臨時休校も絶対ないとは言いきれない状況です。小牧市では、資料6の裏面のとおり、昨年「小牧市のオンライン学習の5ステップ」を策定しました。あわせて、今後、オンライン学習をどうしていくかという中で、一斉休校となった場合に「こどもと学校をつなぐ」ために何がどこまでできるのか、考えておく必要があります。

資料6の表面をご覧ください。現在、ステップ3として、ロイロノートやeライブラリを使って学級単位での課題配信・回収はすべての学校で実施できる環境は整備しています。プラスアルファとして、パイオニア校には、Microsoft Office365のTeamsを使用して課題配布・回収、チャット（音声）のみの会議、動画を使用した会議の検証を行っていただく予定です。

Teamsについては、Zoomのようなオンラインビデオ通信、チャット機能、課題出しなど多様な機能がありますので、こどもたちと教員が安全に活用できる設定環境を模索しているところです。

来月、一部中学校では卒業式の様子を校内の各教室にビデオ配信する予定ですし、本日のように、離れた場所をつなぐ会議ですとか、研修にも活用できる可能性があります。

本日はせつかくの場ですので、全国のICT状況に知見をお持ちの村松委員長より、Teamsの活用について、多様な機能だからこそ、①児童生徒の安全をどう確保するか（設定・指導面・肖像権・著作権など）、②教職員に活用をどのように広めるか、③ウェブ会議開催後のチームやチャンネルの管理方法などについてお話いただき、その後委員間で意見交換を行っていただきまして、今後の取組みの参考とさせていただきたいと

考えております。よろしくお願いいたします。

(村松浩幸委員長)

Teams の設定・活用よりも広い部分の話をするので、参考にさせていただきたいと思えます。画面を共有します。休校中の話とか、こどものクラウドの使い方など、同じことが全国でも課題として出てきています。

現在、文部科学省で動いているのが、2月16日の会見で話がありましたが、端末の持ち帰りについては、3月までにチェックリストを示すということです。当然、クラウドやセキュリティの話などの指針が今年度中に出てくるのではないかと思います。その際は、私の方からも情報提供をさせていただきます。

先ほどの児童生徒の安全をどうやって確保するのかという具体的な話、Teams の設定というよりは大きな話としてどうやって進めていったらいいのか。こどもたち、先生方にどんな風に活用を促していくのかということで、様々な事例があります。最近、お薦めしているのが、文部科学省の StuDX Style というサイトです。色んなパターン、ツールで事例を出しています。ここに色々なヒントが掲載されています。大別すると、「教師とこどもがつながる」、「こども同士がつながる」、「学校と家庭がつながる」、「職員同士でつながる」、そういうようなものを段階的に分けています。どういうステップをしたらいいのか。最初の指導を少人数でとか、パスワードの指導はどうやったらいいいのか、タイピングの指導はどうやったらいのかなどが掲載されています。

中でもオンラインコミュニティへの投稿については、課題になってきます。先進的な学校で、そこは Teams ではなく Google 系のソフトウェアを使っていましたが、チャットをやらせるとこども達の投稿は荒れてくるということです。そこで先生方はどうしたかという、すぐには指導せずに、待ちました。4年生の話ですが、ふざけた投稿をした時、他のこどもから、この書き方はよくないので考えた方がいいという意見が出てきました。それをきっかけにコミュニティ投稿のポイントについて考えることができました。これは非常に大事なところで、先ほどルールの話もありましたが、ルール

などの大枠は大事だが、先生が決めるだけでなく、こどもたち自身が考えて、こどもたち自身のものにできるかどうかモラルやセキュリティの話のポイントになります。安全をどう確保するのかといった時に、先生が一から十まですべて面倒を見るのは難しいです。学校においてルールで縛っても、こどもたちは家庭で私物のスマホやタブレットPCを使っています。そう考えた時に、こどもたち自身がどうやってルール決め、意識を持つことができるのかが大きなポイントです。先生とつながるような朝ノートなども、小牧市は色々とやっているなので、参考にするとおもしろいと思います。デジタル付箋から入っていくのもお勧めです。ぜひ参考にしてください。

同時に、資料3のような取り組みは素晴らしいと思っています。私どもも長野県内でGIGAスクールの長野県のポータルサイトを立ち上げ、県内の好事例、県内のライブラリを共有しています。やっぱり小牧市の中、地元の事例、身近な事例が一番参考になります。今回のように上手くいかなかったことを共有することも大事です。その中で参考になりそうなのが、中学校でやったのですが、クラウドの活用や持ち帰りについて取り組ませたものです。ポイントは、ルールではなくて、心得や目当てを示すことです。生徒や教員のみでなく保護者も含めて一緒に考えていく。細かい注意事項は定期的にやるけれども、何を大事にして、何を狙うのか、ここを大事にしています。当然、やっていく中でトラブルは起きます。こうしたらダメということではなくて、この問題はどうやって解決するのかみんなの問題として一緒に考えていく。その中で安全に使うこととか自制心を磨くということも大事にしています。

それから、参考にしてほしいのがICT管理局、中学校の事例です。中学校自身で生徒会と同じように、生徒たちの自主的な組織をつくりました。何かあったときに、こうしたらいいんじゃないかということを生徒から発信・提案できる仕組みをつくりました。Chromebookでは、システムをつくったり、前の使用者が機器の設定を変更して使いつらいので、こういうことはちゃんとやった方がいいよねということ、先生からではなく、こどもたち自身から言えるような仕組みをつくりました。

Teamsの操作ということではありませんが、安全を確保する、活用を進めるという時

のポイントは、こどもたちが主体的に関われるようにすることです。一番のキーであり、大きな課題ではないかと考えています。

ご意見・ご感想があればお願いします。

(江本克也委員)

こどもたちに主体的に考えさせるのは、その通りだと思います。本校ではルールを作成した際に、禁止事項みたいな書き方はやめて、語尾を変えるなど目当て・狙いになるようにしました。最終的に全てを網羅することは無理なので、実際に問題が出たら、立ち止まって考えいけばいいと思います。校則と一緒に、こどもたち、生徒会が考えて出してくれると理想的だと思いました。

先生の話と関連がないかもしれませんが、GIGA スクール時代の学校教育ということで、私は教務なのでロイロノートを使った授業を参観しました。教員は、こどもに意見を書かせると机間指導といって回りながら授業で取り上げたい意見をピックアップしていきますが、ロイロノートで提出してもらおうとそれが一斉にでき、時短になります。

逆に、教育のアナログの部分がいいこともあります。例えば、理科の実験は、デジタルの映像を見るよりも実際に実験して、失敗したりする方がいいです。デジタルを推進するがゆえに忘れてはいけないアナログの部分を、教員が考えていかなければならないと感じています。

(村松浩幸委員長)

何でもタブレットを使えばいいという訳ではありません。私自身も、技術で実際に物をつくることに関わっていますが、デジタルがあることで加速するし、だからといって手を動かして物を触ることがなくなっていいということはありません。ICT を活用することで、今までのバランスをとりながら、こどもたちがよりよい学びができるようにしていくことが大事です。目当ては何だということを抑えることがポイントです。目当ては、活用率を上げるのではなく、小牧のこどもたちによりよい教育をするため

にどう上手く使うのかという観点で進んでいけると、今の話の部分は、よりクリアになってくると感じました。

他にご意見等がありますか。

(舟橋朋昭委員)

行政改革課の舟橋です。厳しい財政状況の中、大きな金額を使って推進していく事業なので、しっかりと活用してもらいたいと思います。今日、各学校で実際に活用されている状況を伺って若干安心しているところもありますが、特にセキュリティの部分で、端末台数が増えているので、しっかりと対策をとっていただいて、より一層活用していただきたいと思います。

(村松浩幸委員長)

ありがとうございました。

予定されていた議事は終わりました。その他、事務局から何かありますか。

(事務局：上原係長)

来年度の会議の具体的な時期については、まだ決まっておりませんが、委員の皆様と日程調整のうえ決定させていただきますので、よろしく願いいたします。

(村松浩幸委員長)

ありがとうございました。それでは、他にないようでありますので、進行を事務局にお返しいたします。

(事務局：小川室長)

本日、委員の皆様におかれましては、長時間にわたるご審議、また、円滑な進行に対してご協力をいただき、ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、第2回を閉会させていただきます。